

加入事業所	204 事業所	参加率 (事業所)	参加人数	66 人		
出席	55 事業所	27.0%	回答者	51 部	回収率	77.3%

集計結果

1 本日の居宅介護支援部会で取り上げた内容は参考になりましたか？

①	大変参考になった	29	56.9%
②	少し参考になった	11	21.6%
③	あまり参考にならなかった	6	11.8%
④	参考にならなかった	1	2.0%
⑤	未記入	4	7.8%
		51	

2 参考になった点、また参考にならなかった理由

- ・自己選択、自己決定しその結果を支援する事に大変参考になりました。
- ・「ニーズはあるものではなく協働で作るもの」ということにあらためて気づかされました。
- ・65歳大学の取り組みがとても興味深かったです。
- ・家事などの日常生活が社会参加につながっていく事。
- ・社会参加の考え方など
- ・人としての可能性のようなものを考えられた。
- ・セラピストの方々の力を信じる事が出来そうな気持ちになりました。「協働」していきたいと思えることが出来ました。
- ・「共に作っていく」のは基本かなと思っていますが、意思表示を自身で行わない人に対しては仮でも動くしかないと思います。
 - ・埋蔵資源論
 - ・地域小活動支援事業がどのように行われているのか又は、行われていくのを見ておりませんでした。が今後より小職の方々と協働し地域づくりを行っていくことができるのだと実感できました。
 - ・リハビリの講義は回数的に少なく(知らないのか)なかなか参加できなかった。「作業的不公正」等初めて聞く文言でした。「埋蔵資源論」もなるほどそうだと思う⇒どう引きだすのか
 - ・65歳で退職した夫が引きこもりがちになっています。自己発見コースでの自分らしさや自分を見つめ直す作業が必要であると痛感いたしました。
 - ・ケアプランを作成する時の目標設定時にPT・OTに相談することも必要と感じました。
 - ・一人一人が社会・資源という言葉これからリハビリ時、話そうと思いました。
 - ・「自立と言う」内容が日本の方向性がリハビリ的な視点で進んでいることに不安を感じました。
 - ・違う視点からの高齢者との接し方を再考できた。
 - ・POS向けの講義だったのでケアはどちらでもいいのか、どうPOSとの関わりを求めているのかわからなかった。
- 介護予防の為にとは理解できたがケアは介護者を対象としている件数が多いので予防の為の取り組みにどうかかわっていくか色々自分で考えることができた。
 - ・ケアとセラピストの協働に関しての話が少ないように感じた。医療連携ではセラピストとの連携も必要な為もう少し協働についてわかりやすく講義してほしかった。
 - ・参考になったのはセラピストの意識の持ち方を知ることが出来た。
 - ・参考にならなかったところはもう少し気持ちが盛り上がる事がなかった。
 - ・セラピストの仕事が身体の回復にとどまらず人間力の回復だということがよくわかった。目指すところはCMと同じだと知りセラピストの皆さんに親近感が湧いた。

参考になった点、また参考にならなかった理由

専門職としてケアマネとは職域が違うが「地域社会」をどう作っていくのか？個別ケースを通して力を合わせていく地域交流会の運営が大切と、「ニーズ」は作っていくもの、見つけることで見えなくなってしまう。

「自己選択、自己決定し 挑戦出来る機会を持つことを支援する」と言う点。専門職としての在り方が勉強になった。

地域にでていく高齢者、何をしていくか、教室、交流

目標を持ち地域に根差した毎日（日常生活）を過ごすことの大切さ。改めて自立（その人なり）に向けた支援視点を大切にしたい。

専門職の力を借りてチームケアが必要と思った。

医療介護にわたるサービス提供が定期的な情報の共有が必要で協働でニーズを作り、地域で暮らしていきやすいように支援ができるのではと思った

地域のつながりがより健康な状態にするという言葉に感銘を受けました。利用者とのかかわりの中で意識していきたいと思います。

明確な目標の設定すること、ご本人にも作ってもらう事等参考になった。

セラピストとケアが協働で利用者に関わるのは退院時の家屋調査の時ぐらいで、一緒に取り組むことは殆どありません。

協働の必要性を感じました。動かない人は病むとの言葉がとても印象的で自分自身や身の回りに投げかけて行こうと思っています。

協働で作る物、改めて予防が出来るよう積極的に参加が大切です。

実現可能な目標を自分自身で立てて取り組むことが大切。介護予防は「健康のためには参加」がキーワードとなっていることがICFでもある通り必要で実務に活かしてこそその事だと思いました。

生活行為目標の聞き取りは非常に時間がかかる。特に高齢者は難しい話が回りくどいしてきばき答えられない。でも大切なので頑張りたい。

クライアントの意欲の引き出し方の考え方が大変参考になった。拒否的な反応を見せる方が多く動機づけに苦慮することが多い。

高齢者は資源の豊かな対象と考えると支援者側のアプローチも変化が出ると感じました。

ケアマネジャーも地域を意識し「参加」 作業的不公平にならないよう情報提供や働きかけが必要と理解した。

利用者の具体的目標の見出しはセラピストに繋げることが効果的リハビリに通じると学んだ

セラピストとケアの共通点が多く目標の立案取り組み方など大変参考になった。方向性と考え方が同じと気づき敷居が取れた気がします。

参加支援を考え、地域リハビリを検討する機会をPTやOTやドクターと共に持ちたいです。

3

その他（意見感想など）

- ・協働リハの観点・・・（判別できず）
- ・身体機能面だけでない全人的なところ。
- ・もう少し時間があれば良かったと思います。
- ・小林先生ありがとうございました。リハビリテーションの方の話はいつも熱いものが多いのですが、今回も熱い話が聞けて感動しました。
- ・難しく考えていましたが思ったより単純なのかなと思いました。
- ・今までのリハビリへの捉え方から自立って何？というとても参考になるお話でした。
- ・閉じこもっている利用者をデイサービス等に参加して頂くために、あの手この手で時間をかけています。
- ・勉強になりました。

今後、部会で取り上げて欲しい内容

- 身寄りのない方への対応とか
- 地域の社会資源の利用の仕方。イフォ-マルサ-ビスについて
- 調剤薬局の薬剤師の皆さんとこのような合同研修を試みたい。薬局でも窓口で患者のチェックリストを作成したり、言動から支援が必要と感じた場合、包括につなげていると聞いた。連携の可能性を感じた。

顔の見える関係作りのきっかけにしたい。

権利擁護事業の具体的事例またかんれんしたサービス等

キーパーソンがいない利用者が増えてきている。成年後見制度など制度について関わっている方の話を聞きたい。

認知症だけでなく精神疾患を併せ持つ人もいる。医療とのかかわりも増えてきていると思われるのでその人たちとの話を聞きたい。

地域の高齢者に関わっている民生委員さん等の話を聞きたい。